

## 事業評価書

補助事業名	環境衛生施設:リサイクルセンターペットボトル減容機改良工事				
補助事業者名	福生市				
実施場所	福生市熊川1566番地4				
補助事業の成果の目標	<p>本市のリサイクルセンターは平成9年度に建設されており、ペットボトル減容機においては、老朽化が著しく、また建設当初に比べペットボトルの回収量が増加しており、機器の処理能力が不足している状態にある。よって、ペットボトル減容機の能力を向上させ改良することにより現況と同量のペットボトルを効率的に処理できるようにする。</p> <p>【参考指標】 平成28年度 ペットボトル処理量 193.02t</p>				
補助事業の内容	改修工事 ペットボトル減容機取替え1基				
補助事業の始期及び終期	平成29年度				
事業費及び交付金額		28年度	29年度	30年度 以降予定	計
	事業費	円	円 22,140,000	円 0	円 22,140,000
	交付金額	円	円 20,000,000	円 0	円 20,000,000
補助事業の成果及び評価並びに地域住民への周知の実施状況	<p>[補助事業の成果及び評価] 平成30年度の処理量と稼働時間、機器能力による稼働率から、機器改良前と比べてペットボトルをより効率的に処理できるようになった。</p> <p>[地域住民への周知の実施状況] 工事期間中、工事終了後ともに、防衛交付金事業である旨を掲示している。また、工事終了後に福生市ホームページ及び広報に掲載した。</p>				
事業の改善措置及び今後の対応	無				
事業の評価に際しての第三者機関の活用の有無	無				

## 事業評価書

補助事業名	交通施設:福生駅ペDESTリアンデッキ改良工事				
補助事業者名	福生市				
実施場所	福生市東町地内				
補助事業の成果の目標	<p>福生駅ペDESTリアンデッキは、歩行者の通行専用の高架建築物である。本施設は、平成15年度にしゅん工してから既に13年経過しており、老朽化が著しく、スチール側面パネルの劣化やスチール巾木が腐食し、漏水している。更に腐食が進行すると、柱などの構造材が腐食し、断面欠損により耐荷力が低下する危険性がある。よって、本施設を耐候性の高い塗料にて改修することにより、良好な状態を維持するよう措置を図る。</p> <p>【参考指標】平成27年度、福生駅の乗降者数:16,639人/日（JR東日本調べ）</p>				
補助事業の内容	改修工事 S造塗装工事等				
補助事業の始期及び終期	平成29年度				
事業費及び交付金額		28年度	29年度	30年度 以降予定	計
	事業費	円	円 51,729,840	円	円 51,729,840
	交付金額	円	円 41,000,000	円	円 41,000,000
補助事業の成果及び評価並びに地域住民への周知の実施状況	<p>[補助事業の成果及び評価] 工事完了後、ペDESTリアンデッキのスチール側面パネルやスチール巾木が良好な状態に保たれ、漏水していないことを目視により確認した。</p> <p>[地域住民への周知の実施状況] 工事期間中、工事終了後ともに、防衛交付金事業である旨を掲示している。また、工事終了後に福生市ホームページ及び広報に掲載した。</p>				
事業の改善措置及び今後の対応	無				
事業の評価に際しての第三者機関の活用の有無	無				

## 事業評価書

補助事業名	消防に関する施設:防災用備品				
補助事業者名	福生市長				
実施場所	福生市大字熊川1606番地1				
補助事業の成果の目標	<p>平成29年度完成予定の防災食育センターは、災害時において以下の機能を備えた施設である。</p> <p>①福東地域の避難生活者を受け入れる避難所機能  ②支援物資の受入、集積、仕分け、搬送や応援部隊の受入などの拠点機能  ③避難所開設に必要な毛布等の備品や応急給食実施に必要な米や乾燥具材等の備蓄機能  ④災害時に市内避難生活者に対して応急給食を実施する応急給食機能  これらの機能を維持するために必要な各種備品類を整備する必要がある。</p> <p>【参考指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時対応施設での想定受入避難生活者として福東地域の住民310人を想定。当該人数が避難した際に必要となる備品類を整備する。</li> <li>・市内避難生活者約15,000人を対象に、応急給食を実施。災害発生後4日目を降最低3日間、一人あたりおにぎり2個と汁物を提供する。</li> </ul>				
補助事業の内容	防災食育センターにて、災害時対応施設としての機能を維持するために必要な各種備品類を整備する。				
補助事業の始期及び終期	平成29年度				
事業費及び交付金額		28年度	29年度	30年度	計
	事業費	円 —	円 19,910,664	円 —	円 19,910,664
	交付金額	円 —	円 18,000,000	円 —	円 18,000,000
補助事業の成果及び評価並びに地域住民への周知の実施状況	<p>〔補助事業の成果及び評価〕</p> <p>平成29年8月に納品が完了した防災用備品について、当初、年に一度市で実施する総合防災訓練の際に同施設における訓練への参加者(自主防災組織や消防団員)等に防災用備品を使用してもらい、アンケートの実施と結果集計を用いて評価を行う予定であったが、平成29年度の総合防災訓練が第48回衆議院議員選挙投票日と重なり中止となったことから、ふっさ防災展(平成30年1月17日、18日、19日)において、当初予定していたアンケートを実施、集計を行い評価を行うこととした。</p> <p>防災展では、防災用備品の説明パネルや、実物の展示を行った。結果、アンケートに回答をいただいた方のうち90%以上の方から、防災用備品があることで、防災食育センターが災害発生時に複数の機能(避難所機能、拠点機能、備蓄機能、応急給食機能)を発揮することができる点を理解できた、と回答が得られた。</p> <p>〔地域住民への周知の実施状況〕</p> <p>防災展の開催について、プレスリリース及び平成30年1月4日号の広報で周知を行った。防災展では防災用備品が、防衛省の調整交付金を活用している旨を説明パネルに記載し、周知を行った。また、平成29年8月15日号の広報、平成30年1月4日号の教育広報、及びホームページにも本事業が防衛省の調整交付金を活用している旨を掲載し、周知を行った。</p>				
事業の改善措置及び今後の対応	無				
事業の評価に際しての第三者機関の活用の有無	無				

## 事業評価書

継続事業名	教育、スポーツ及び文化に関する事業:古民家等の維持・管理事業(基金)						
補助事業者名	福生市長						
事業主体	福生市						
実施場所	福生市内						
継続事業の目的	<p>本市では、祖先の遺した貴重な文化遺産を現代に生かし、さらに未来に伝えることを目的に文化財保護行政を行っているが、市としてかつての福生の生活様式を伝える古民家を有しておらず、従来より古民家を活用した事業を行う必要性を感じていた。</p> <p>平成25年度に相続の関係から市内の古民家を購入する目処が立ったことから、古民家保存事業(基金)により、市として古民家を購入し、従来からの課題であった市内の生活様式を伝えるための事業に着手し、古民家を活用するとともに、後世に適切な形で残していくために必要となる維持管理を行っていく。</p>						
継続事業の内容	古民家等の維持・管理 (管理人配置、修繕、庭木管理等)						
継続時事業の始期及び終期	基金の造成:平成25年度 基金の処分:平成26年度から平成34年度						
継続事業に要した経費の総額及び交付金充当額	継続事業に要した経費の総額				交付金充当額		
	7,149,056円				5,450,000円		
基金の造成及び処分	基金造成額(A)					基金処分額(B)	基金残額(A)-(B)
	交付金	市町村費等	その他	運用益	計		
	円	円	円	円	円	円	円
	39,006,000				39,006,000	17,450,000	21,556,000
継続事業の成果及び評価	<p>平成28年度に引き続き、年末年始を除き週6日で一般公開を行った。</p> <p>防犯、防火対策としての機械警備や、最低限必要な庭木の管理を行うことで、良好な状態で古民家を維持管理した。</p> <p>来場者数2,879人。小学生から高齢者まで幅広い層に来場していただいた。</p> <p>また、古民家内で、公民館や図書館主催の事業の会場としても使用し、より多くの市民の来場を得た。</p>						
継続事業の評価に際しての第三者機関の活用の有無	無						

## 事業評価書

補助事業名	教育、スポーツ及び文化に関する事業:市民会館指定管理委託事業(基金)									
補助事業者名	福生市長									
実施場所	福生市内									
補助事業の成果の目標	<p>本市では、市民の芸術文化や文化創造の拠点として、市民の心豊かな生活と活力ある地域社会の実現に向けて、地域での芸術や文化の振興を図るために福生市民会館を設置している。</p> <p>当施設の運営は、平成20年度までは本市直営によるものであり、当時の運営上、芸術や文化の専門的知識やノウハウに乏しく、時代に即した文化活動への取組ができなかったため、利用者や来館者からサービスの改善を求められていた。</p> <p>そこで、平成21年度から指定管理者制度を導入し、民間事業者の専門的知識やノウハウを生かして、行政では実施することが困難な取組を行い、地域住民が質の高い芸術や文化に触れることができる身近な施設として、引き続き、より一層のサービス水準の向上を図る。</p> <p>【参考指標】 福生市の人口 : 58,613人 (平成28年1月1日現在)</p>									
補助事業の内容	福生市民会館の維持運営									
補助事業の始期及び終期	基金の造成:平成25年度から平成29年度 基金の処分:平成26年度から平成30年度									
事業費及び交付金額	基金造成額 (A)					基金 処分額 (B)	基金 残額 (A)-(B)	継続事業 に要した額		
	年度	交付金	市町村 費等	その他	運用益				計	
		円	円	円	円	円	円	円	円	円
	25	80,000,000				80,000,000		80,000,000		
	26	207,223,000				207,223,000	78,500,000	208,723,000	84,623,000	
	27	60,304,000				60,304,000	77,000,000	192,027,000	84,578,000	
28						80,000,000	112,027,000	84,032,800		
29	37,973,000				37,973,000	75,000,000	75,000,000	85,508,000		
補助事業の成果及び評価並びに地域住民への周知の実施状況	<p>[補助事業の成果及び評価]</p> <p>施設利用者及び来館者に対してサービス水準の満足度についてのアンケートを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設内のスタッフの対応について、「非常に良い」、「まあまあ良い」を合わせて83%。</li> <li>利用申込みの申請・チケットの購入などについて、「非常にスムーズ」、「まあまあスムーズ」を合わせて62%。</li> <li>ホール・集会室などの清掃について、「非常に良い」、「まあまあ良い」を合わせて84%。</li> <li>館内の案内表示の見やすさについて、「非常に良い」、「まあまあ良い」を合わせて74%。</li> </ul> <p>全般として「非常に悪い」1%、「やや悪い」1%とわずかであり、利用者のサービス水準についての満足度は高いレベルである。</p> <p>[地域住民への周知の実施状況]</p> <p>本事業について防衛省の交付金を活用して実施している旨を、市ホームページ、教育広報「福生の教育」及び市民会館館報「ぷりずむ」に掲載して、周知を図った。</p>									
事業の改善措置及び今後の対応	無									
事業の評価に際しての第三者機関の活用の有無	無									

## 事業評価書

補助事業名	教育文化施設:小学校給食用設備改良(基金)																								
補助事業者名	福生市長																								
実施場所	福生市大字福生1055番地 外																								
補助事業の成果の目標	<p>現在、本市内の七小学校の昼食においては、市内2箇所にある給食センターで調理した給食を各小学校に配送しているところであるが、平成29年9月からは、現在計画中の「防災食育センター」で調理した給食の配送に変更する。</p> <p>この変更に伴い、①配送方式が現在の食缶食器バラ積み方式から大型コンテナ方式に変更②食器の材質が現在の樹脂製から強化磁器製に変更となることから、給食を円滑に進めるために、現在ある小荷物用昇降設備を新方式に対応できるよう改良し、生徒に対して安定的かつ衛生的に給食を提供できる環境を整える。</p> <p><b>【参考指標】</b> 平成27年度の各小学校児童数(平成27年5月1日現在)</p> <table border="0"> <tr> <td>福生第一小学校</td> <td>: 311名</td> <td>福生第二小学校</td> <td>: 430名</td> </tr> <tr> <td>福生第三小学校</td> <td>: 517名</td> <td>福生第四小学校</td> <td>: 205名</td> </tr> <tr> <td>福生第五小学校</td> <td>: 266名</td> <td>福生第六小学校</td> <td>: 427名</td> </tr> <tr> <td>福生第七小学校</td> <td>: 286名</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>									福生第一小学校	: 311名	福生第二小学校	: 430名	福生第三小学校	: 517名	福生第四小学校	: 205名	福生第五小学校	: 266名	福生第六小学校	: 427名	福生第七小学校	: 286名		
福生第一小学校	: 311名	福生第二小学校	: 430名																						
福生第三小学校	: 517名	福生第四小学校	: 205名																						
福生第五小学校	: 266名	福生第六小学校	: 427名																						
福生第七小学校	: 286名																								
補助事業の内容	市内の小中学校において、給食を円滑に進めるために、配膳室内装工事や給食用昇降設備の撤去・新設工事等を行い、生徒に対して安定的に給食を提供できる環境を整える。																								
補助事業の始期及び終期	基金の造成:平成26年度から平成27年度 基金の処分:平成27年度から平成29年度																								
事業費及び交付金額	基金造成額(A)						基金処分額(B)	基金残額(A)-(B)	継続事業に要した額																
	年度	交付金	市町村費等	その他	運用益	計																			
		円	円	円	円	円	円	円	円																
	26	15,000,000				15,000,000		15,000,000																	
	27	70,400,000				70,400,000	15,000,000	70,400,000	18,870,000																
28						40,000,000	30,400,000	53,476,000																	
29						30,400,000		42,226,880																	
補助事業の成果及び評価並びに地域住民への周知の実施状況	<p>[補助事業の成果及び評価] 児童に対して安定的かつ衛生的に給食を提供できる環境が図られているかを給食配膳員に対し聞き取り調査を行う。 市内7小学校全ての配膳員(25名)に聞き取り調査を実施した。結果、全体の80%以上の職員から、小学校給食用設備の改良を行ったことで、児童に対し安定的かつ衛生的に給食を提供できる環境が整備されたとの回答が得られた。</p> <p>[地域住民への周知の実施状況] 工事期間中、施設の出入口付近に交付金を活用した事業である旨を掲示、工事終了後には施設の出入口付近に掲示を行った。また平成29年1月4日号の教育広報に掲載した。今後、平成30年1月4日号の教育広報およびホームページにも掲載予定。</p>																								
事業の改善措置及び今後の対応	無																								
事業の評価に際しての第三者機関の活用の有無	無																								

## 事業評価書

補助事業名	教育文化施設:防災食育センター食育用備品(基金)							
補助事業者名	福生市長							
実施場所	福生市大字熊川1606番地1 外							
補助事業の成果の目標	<p>現在、市内小学校の昼食においては、全児童に対し完全給食を実施している。一方、中学校の昼食においては、原則弁当持参とし、弁当の持参が困難な一部生徒に対しては、各中学校内に設けられたランチルームにて昼食の提供事業を実施しているところである。また、各小中学校では日頃から児童生徒に対して、食生活と自己の健康との繋がり等をテーマに食育授業を行っている。</p> <p>平成29年度完成予定の防災食育センター稼働後においては、市内全小中学校において完全給食を実施することとなり、同センターで調理した給食は各学校へ配送され児童生徒に提供されるため、同センターが本市における食育授業の拠点となる。</p> <p>これらを円滑に進めるため同センターに、給食調理用機器のうち可動式の調理用機器、各学校への配送から児童生徒への配膳に不可欠な給食配送用コンテナ及び配送車両、食育に適した強化磁器食器及び食育授業に必要なOA機器等を整備し、児童生徒に対して安定的に安全でかつ、衛生的に学校給食を提供するとともに、児童生徒が理解しやすい食育授業を行える環境を整える。</p> <p><b>【参考指標】</b>  平成29年度の各小中学校生徒数（平成29年5月1日現在）  福生第一小学校：310名      福生第二小学校：423名  福生第三小学校：522名      福生第四小学校：226名  福生第五小学校：262名      福生第六小学校：399名  福生第七小学校：252名  福生第一中学校：418名      福生第二中学校：448名  福生第三中学校：281名</p>							
補助事業の内容	市防災食育センターにおいて、安定的かつ衛生的に給食を提供するのに必要な備品、および児童生徒に正しい食生活に関する理解を深めてもらうための食育用備品の整備を行う。							
補助事業の始期及び終期	基金の造成:平成27年度から平成29年度 基金の処分:平成29年度							
事業費及び交付金額	基金造成額(A)					基金処分額(B)	基金残額(A)-(B)	継続事業に要した額
	年度	交付金	市町村費等	その他	運用益			
		円	円	円	円	円	円	円
	27	100,000,000				100,000,000	100,000,000	
28	300,000,000				300,000,000	400,000,000		
29	20,000,000				20,000,000	420,000,000	441,561,350	

<p>補助事業の成果及び評価並びに地域住民への周知の実施状況</p>	<p>教職員、保護者、防災食育センター従事者、各学校の給食配膳員、児童生徒に対し、次の聞き取り調査を行う。</p> <p>① 安定的かつ衛生的に給食を提供できているか ② 正しい食生活に関する児童生徒の理解度が向上しているか</p> <p>[補助事業の成果及び評価] 児童に対して安定的かつ衛生的に給食を提供できる環境が図られているかを給食配膳員に対し聞き取り調査を行う。 センター調理従事者(65名)、市内全学校(小学校7校、中学校3校)の配膳員(39名)に聞き取り調査を実施した。結果、センター従事者、配膳員共に、全体で80%以上の職員から、施設用備品、給食用備品を整備したことで、児童生徒に対し安定的かつ衛生的な給食提供が可能になったと回答を得られた。 また、当該センター開催の試食会へ参加した保護者(109人)、研修会へ参加した食育リーダー(学校教諭等で構成、11人)、社会科見学に来た児童(181人)、貸し出した手洗いチェッカーを使用した生徒(18人)に聞き取り調査を実施した。結果、いずれの団体においても回答者の98%以上から防災食育センターに食食用備品を整備したことで、食育に関する理解度が向上したとの回答が得られた。</p> <p>[地域住民への周知の実施状況] 本事業が防衛省の調整交付金を活用して実施されている旨を、平成29年8月15日号の広報に掲載した。また、平成30年1月4日号の教育広報、平成29年度冬休み号の給食だより、ホームページに同様の内容を掲載した。</p>
<p>事業の改善措置及び今後の対応</p>	<p>無</p>
<p>事業の評価に際しての第三者機関の活用の有無</p>	<p>無</p>



## 事業評価書

補助事業名	教育、スポーツ及び文化に関する事業:英語教育指導助手(外国人)委託事業(基金)								
補助事業者名	福生市長								
実施場所	福生市内								
補助事業の成果の目標	<p>福生市では、本市の子どもに、自信と誇りを持たせ、グローバル化する社会においても、積極的に人とコミュニケーションが図れる資質・能力を育成する英語教育を展開することを重点目標としている。その目標達成の基幹となる本事業の推進のため、民間委託により外国人英語指導助手(ALT)を中学校に配置し、併せて小学校に随時巡回することで、児童・生徒が「話したいときや書きたいときに英語を使うことができる」という、より自然な学習環境を整備する。</p> <p>【参考指標】 平成28年度の各小中学校児童・生徒数(平成29年1月8日現在) 第一小学校:306名 第二小学校:424名 第三小学校:525名 第四小学校:217名 第五小学校:249名 第六小学校:401名 第七小学校:266名 (小学校計 2,388名) 第一中学校:426名 第二中学校:480名 第三中学校:287名 (中学校計 1,193名) (児童・生徒数合計 3581名)</p>								
補助事業の内容	英語教育指導助手(外国人)の中学校常駐及び小学校巡回配置に係る業務委託								
補助事業の始期及び終期	基金の造成:平成27年度から平成28年度 基金の処分:平成28年度から平成34年度								
事業費及び交付金額	基金造成額(A)						基金処分額(B)	基金残額(A)-(B)	継続事業に要した額
	年度	交付金	市町村費等	その他	運用益	計			
		円	円	円	円	円	円	円	円
	27	20,000,000				20,000,000		20,000,000	
28	90,000,000				90,000,000	10,000,000	100,000,000	16,114,429	
29						10,000,000	90,000,000	15,035,642	
補助事業の成果及び評価並びに地域住民への周知の実施状況	<p>[補助事業の成果及び評価] 【アンケート結果】 ・ALTの授業で力がついてきている 小学生 87.3% 中学生 75.3%</p> <p>・ALTの授業は英語力の向上に役立つと思う 小学生保護者 96.9% 中学生保護者 95.4% 小学校教員 96.6% 中学校教員 100.0%</p> <p>[地域住民への周知の実施状況] 市ホームページ及び教育広報「福生の教育」に掲載して、周知を図った。</p>								
事業の改善措置及び今後の対応	無								
事業の評価に際しての第三者機関の活用の有無	無								

## 事業評価書

補助事業名	住民の生活の安全に関する事業:通学路見守り委託事業(基金)								
補助事業者名	福生市長								
実施場所	福生市内								
補助事業の成果の目標	<p>児童・生徒が登下校中に犯罪や交通事故に巻き込まれる事件が全国的に後を絶たない状況がある。</p> <p>福生市内においては、不審者情報が頻繁に寄せられ、児童が怪我を負わされたりする事件等が発生している。また、これまでも児童の保護者や地域の方々が、自主的に登下校中の見守りを行っているが、地域の特性等や意識により、見守りの状況は、学校ごとに異なっている。</p> <p>このため、全児童が登下校中に犯罪及び交通事故による被害を受けないよう、全小学校の通学路において見守り体制を整備し、児童の安全確保を図る。</p> <p>【参考指標】 教育委員会に寄せられた不審者情報件数  実績 平成26年度 23件  平成27年度 13件(平成27年12月末現在)</p>								
補助事業の内容	通学路見守り員の配置及び巡回に係る業務委託								
補助事業の始期及び終期	基金の造成:平成27年度から平成32年度 基金の処分:平成28年度から平成34年度								
事業費及び交付金額	基金造成額(A)					基金処分額(B)	基金残額(A)-(B)	継続事業に要した額	
	年度	交付金	市町村費等	その他	運用益				計
		円	円	円	円	円	円	円	円
	27	20,000,000				20,000,000		20,000,000	
28						10,000,000	10,000,000	11,167,540	
29	30,000,000				30,000,000	10,000,000	30,000,000	11,636,917	
補助事業の成果及び評価並びに地域住民への周知の実施状況	<p>[補助事業の成果及び評価]  平成29年度末に学校や保護者を対象に見守り事業に関するアンケートを実施したところ、9割を超える方から「児童の通学が安全になったと思う」との回答があり、継続して市民から一定の評価があったと考えている。</p> <p>市に寄せられた不審者情報件数については、平成28年度に比べ29年度は減少しており、通学路見守り員による巡回等の抑止効果が出ていると考えている。</p> <p>[地域住民への周知の実施状況]  市ホームページ及び教育広報「福生の教育」に掲載して、周知を図った。</p>								
事業の改善措置及び今後の対応	無								
事業の評価に際しての第三者機関の活用の有無	無								

## 事業評価書

補助事業名	教育、スポーツ及び文化に関する事業:市立学校ICT推進事業(基金)								
補助事業者名	福生市長								
実施場所	福生市内								
補助事業の成果の目標	<p>福生市では教育の情報化を効果的・効率的に取り組み、魅力ある学校づくりを推進することを目的とし、「福生市立学校ICT推進計画」を推進する。 このことにより、市立学校においてICT機器を活用した授業等を展開し、児童・生徒の「学習意欲」「興味喚起」「理解促進」の向上を図る。</p> <p>【参考指標】 平成28年度の各小・中学校児童生徒数（平成29年1月8日現在）  福生第一小学校：306名　福生第二小学校：424名  福生第三小学校：525名　福生第四小学校：217名  福生第五小学校：249名　福生第六小学校：401名  福生第七小学校：266名　（小学校計 2,388名）  福生第一中学校：426名　福生第二中学校：480名  福生第三中学校：287名　（中学校計 1,193名）  （児童・生徒数合計）3581名</p>								
補助事業の内容	市立小・中学校に設置するパソコンやタブレット端末の機器借上等								
補助事業の始期及び終期	基金の造成:平成28年度から平成37年度 基金の処分:平成29年度から平成37年度								
事業費及び交付金額	基金造成額 (A)					基金 処分額 (B)	基金 残額 (A)-(B)	継続事業 に要した額	
	年度	交付金	市町村 費等	その他	運用益				
		円	円	円	円	円	円	円	円
	28	12,200,000				12,200,000		12,200,000	
	29	44,000,000				44,000,000	7,980,000	48,220,000	9,981,468
補助事業の成果及び評価並びに地域住民への周知の実施状況	<p>〔補助事業の成果及び評価〕 平成29年9月より全校で個別学習用タブレット端末の利用を開始し、年度末に教員・保護者へのアンケートを実施した。 教員アンケートでは「全児童が、3年生同様家庭へタブレットを持ち帰り、学習の楽しさや意欲の高まりを感じられるようになるといい。」「調べ学習は多教科にわたり活用したい。体育、総合、校外学習でカメラを使えたのもとても良かった。」等の記載があった。 保護者アンケートでは「子供からすすんで楽しく勉強できた。」「間違えた問題の解説が分かりやすかった。」「答え合わせの手間がかからないから効率良い。」「個人の得意、不得意な問題がわかり、勉強しやすい。」「今後、コンピューターやインターネットを中心とするネットワークを活用し、社会生活で役立つ技術は必須。」等の記載があった。 導入初年度のため各学校でも運用について試行錯誤しながら積極的に活用し、保護者からもその効果について一定の評価をいただいたと考えている。 一部フィルタリングや運用方法の課題について意見があったため、今後の効果的な活用に向けた参考とした。</p> <p>〔地域住民への周知の実施状況〕 保護者宛て周知文書への記載、貸与品(タブレット端末・充電保管庫)への表示を行った。また、市ホームページ及び教育広報「福生の教育」に掲載して、周知を図った。</p>								
事業の改善措置及び今後の対応	無								
事業の評価に際しての第三者機関の活用の有無	無								